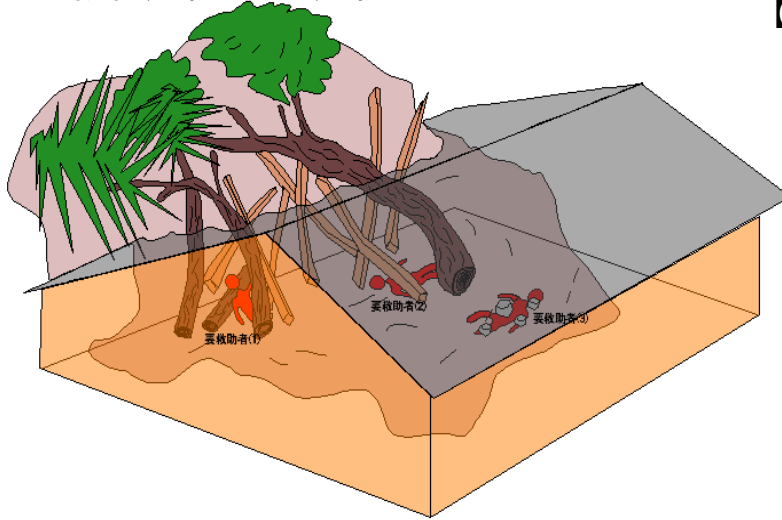


1 訓練項目別概要票

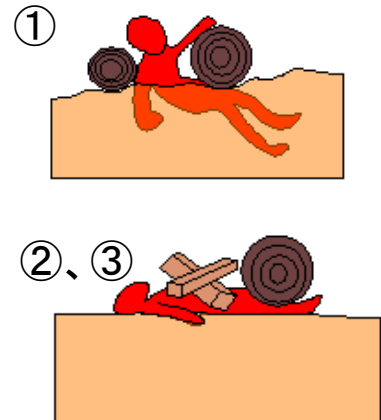
訓練名称	土石流生き埋め者救出訓練							訓練番号	⑤
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出動	完了					
	135分	9時10分	9時25分	11時40分					
訓練場所	部隊運用訓練会場								
訓練想定	住宅地にて大規模な土石流が発生し、広範囲に住家及び車両が損壊し多数の生き埋め者が発生した。								
	<p>訓練趣旨</p> <p>●広島豪雨災害等を教訓として、記録的な短時間豪雨により、避難準備のいとまがない状況において刹那に発生した大規模広範囲に及ぶ土石流により、住宅及び走行車両が損壊して多数の生き埋め者が発生した現場想定。</p> <p>★活動の長期難航が見込まれる土砂等の除去作業を伴う災害現場における、特殊装備小隊（重機）保有の効率的な技術並びに資機材投入、及び損壊した住宅での救助検索に際して倒壊危険防止の安定化技術を施す等の二次災害防止の安全措置を万全に施し、効果的な救助活動を実施。</p>								
参加部隊	隊別	岡山県	香川県	島根県	その他				合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数	隊数				隊数
	統括県大隊長	1							1
	県大隊指揮隊		1						1
	救助小隊	2	3	1					6
	消火小隊	3	2	3					8
	救急小隊	3	4						7
	特殊装備小隊（重機）	1		1					2
	その他の隊	1							1
	島根県警				2				2
	救助犬団体				1				1
合計	11	10	5	3				29	
《活動概要》									
<p>1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施</p> <p>2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施</p> <p>3 特殊装備小隊（重機） 埋没車両等からの救助活動において、性能特性を發揮</p> <p>4 救助小隊、及び消火小隊 二次災害防止に留意した安全確保の措置について、救助活動着手前に実施 特殊装備小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施</p> <p>5 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施</p> <p>6 島根県警 県警機動隊及び被災地署員による、徒手による土砂・ガレ等の除去及び屋内検索・救助活動について、緊急消防援助隊との連携を実施</p> <p>7 救助犬団体 要救助者の検索について、救助活動前における場所特定や、活動後の再検索を実施</p>									
関係機関	島根県警察本部警備部機動隊、安来警察署、災害救助犬出動団体協議会								
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊								

## 2 訓練想定・施設

### (ア) 被害建物(木造建物)



#### 【要救助者の配置状態】



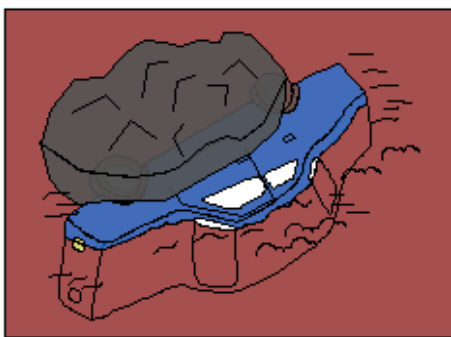
#### 【要救助者状況】

①	倒流木（丸太等）の下敷き、下腿と右腕が埋没している状態。
②、③	倒流木（丸太等）及び多数の柱等の下敷き。隣接棟から流入してきた柱等が複雑に覆いかぶさった状態。

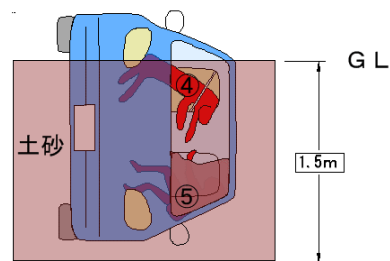
#### 【傷病程度等】

負傷者				配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
No	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
1	片山ミツエ		女	建物 (ア)	赤				両大腿骨折	不可	100	無	36	100	138	80/55	
2	柴田ユウスケ		男	建物 (ア)	赤				多発外傷	不可	100	無	25	95	96	130/75	
3	白井ヤスヒロ		男	建物 (ア)	赤				多発外傷	不可	300	無	36	92	156	90/80	

### (イ) 埋没車両(普通乗用車)



#### 【要救助者の配置状態】



#### 【要救助者状況】

④	シートベルトが脇に引っ掛かっている状態で設定。
⑤	車内にも土砂が流入しており、土砂に埋没しているが右手のみは視認できる状態。

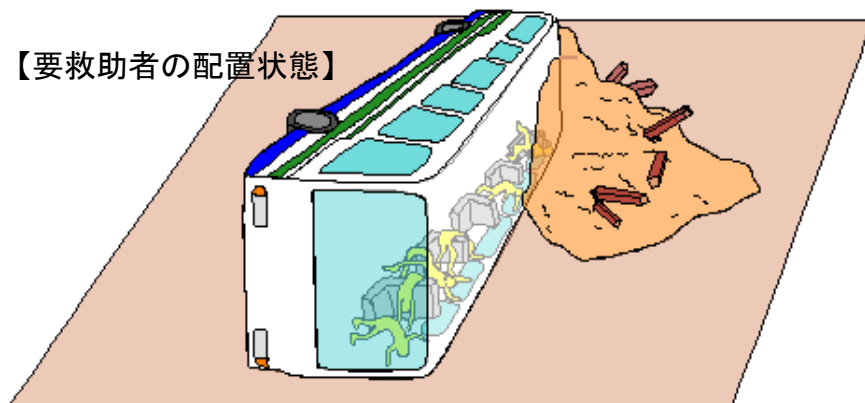
#### 【傷病程度等】

負傷者				配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
No	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
4	杉浦ジュンコ		女	車両内 (イ) (運転席)	黒				なし	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
5	天野タケシ		男	車両内 (イ) (助手席)	黒				なし	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	

## (イ) 被害車両(大型バス)

※実際には、横転させていない状態で訓練実施。

### 【要救助者の配置状態】



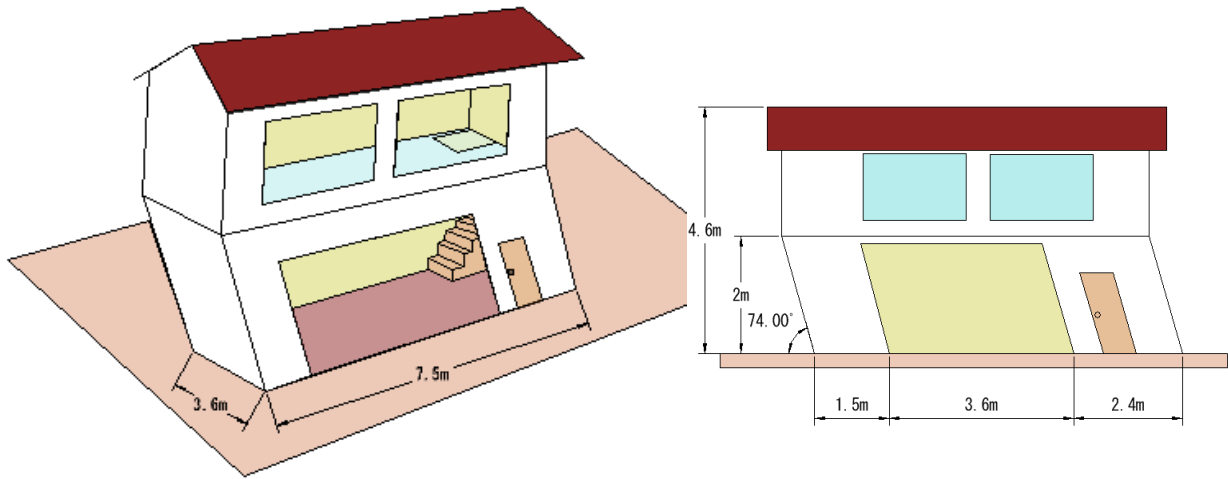
### 【要救助者状況】

⑥	バスの運転手。シートベルトをしておらず、運転席から乗降口に投げ出された状態。
⑦	車両右側最前列に座っていた乗客。事故の衝撃により、左側の席まで投げ出されたもの。
⑧	車両右側の列に座っていた乗客。事故の衝撃により、左側の席まで投げ出されたもの。
⑨	車両右側の列に座っていた乗客。事故の衝撃により、左側の席まで投げ出されたもの。
⑩	車両左側の席に座っていた乗客。事故の衝撃により窓ガラスで頭を強打。出血あるが止血状態。
⑪	車両左側最後列席に座っていた乗客。事故の衝撃により右腕を負傷。

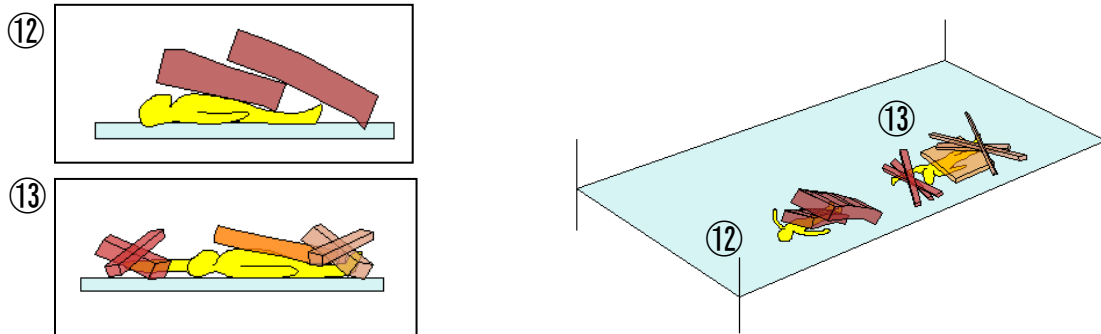
### 【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	生命	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
	氏名	関係	性別		START	PAI	有・無	タイミング									
6	岸辺カズヨシ		男	バス (イ) (車内: 運転手)	黄				右下腿 打撲	不可	0	有	25	98	100	118/65	
7	木村ノゾム		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				右上腕 打撲	不可	0	有	18	100	85	125/85	
8	寺沢カズナリ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				両膝打撲	不可	0	有	20	99	75	110/75	
9	新村タカシ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				左下腿 打撲	不可	3	有	25	100	102	130/80	
10	坂本コウジ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				左下腿 打撲	不可	0	有	16	100	80	120/85	
11	鈴木タカユキ		男	バス (イ) (車内: 乗客)	黄				頭部痛	不可	0	有	16	99	66	118/65	

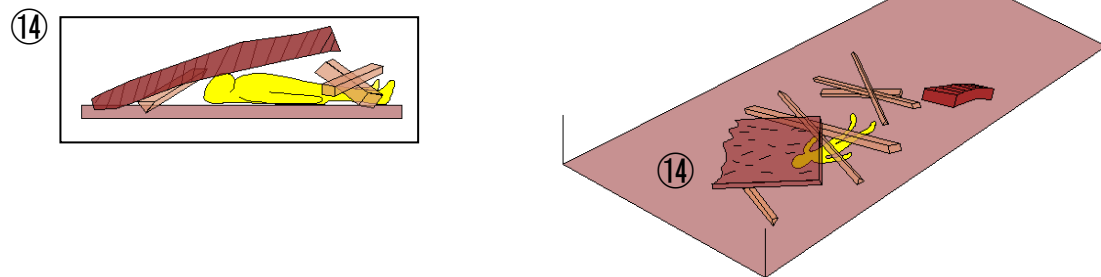
(ウ)被害建物(2階建て木造住宅)



【要救助者の配置状態】 2階



【要救助者の配置状態】 1階



【要救助者状況】

⑫	倒れてきたタンス及び棚の下敷き。
⑬	家財等の下敷きになった状態。
⑭	壁が剥がれ、顔面部に倒れてきて受傷。また、下腿が家財等の下敷き。

【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (<%)	脈拍数	血圧	備考
	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
12	立川アツシ		男	建物 (ウ)	黄				右膝打撲	不可	0	有	18	97	95	125/80	
13	田中アキヒロ		男	建物 (ウ)	黄				左腕打撲 左下腿打撲	不可	0	有	24	99	115	128/84	
14	井口ミツマサ		男	建物 (ウ)	黄				右大腿部 打撲	不可	0	有	18	100	95	124/84	



### 3 訓練評価 【島根県評価員】

- (1) 多数の傷病者に対し、DMATの派遣要請を行い連携活動を行っていた。
- (2) 「余震」の想定付与に対し、騒音のため全隊への周知が徹底されず、活動継続する隊があった。
- (3) 統一的な活動表示（マーキング）について、随所に使用されており浸透していると感じた。
- (4) 車両集結・停車場所スペースが狭く、渋滞となり手前の訓練ブースの訓練開始に影響があった。
- (5) 大規模土砂災害では消防力だけでは対応できない状況も考えられ、建設業者の重機の活用について検討が必要と考える。
- (6) 関係機関への訓練趣旨（ブラインド訓練）が徹底されていなかったためか、訓練開始前に想定ブースの状況評価（事前確認）が行われていた。

### 4 活動状況



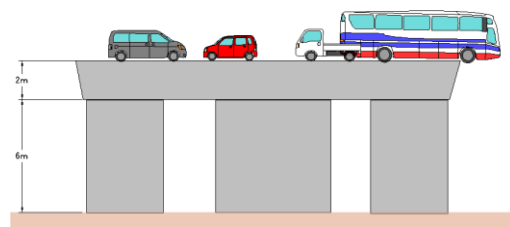
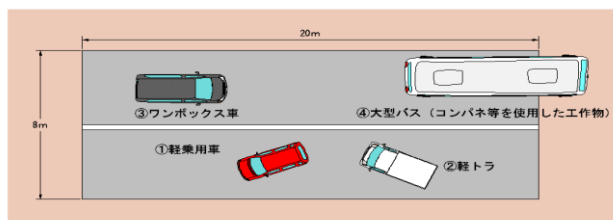
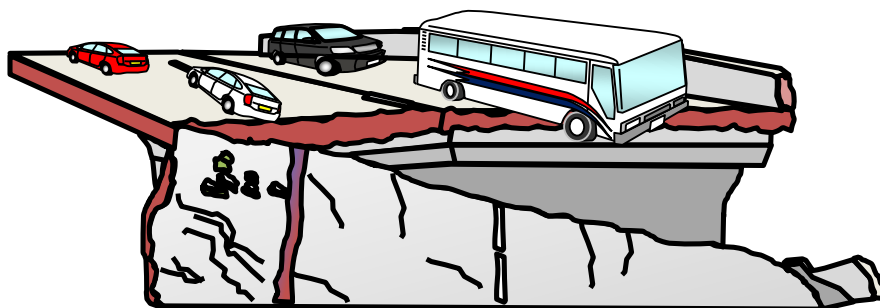




1 訓練項目別概要票

訓練名称	橋梁倒壊孤立者救出訓練				訓練番号	⑥				
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出 動	完了						
	125分	9時20分	9時35分	11時40分						
訓練場所	部隊運用訓練会場									
訓練想定	地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊し、残存する橋梁上に多数の孤立者が発生している。									
	訓練趣旨									
	<p>●平成20年岩手・宮城内陸地震での山体崩落による自動車専用道路の橋梁倒壊被害等を踏まえ、地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊・落下し、残存する橋梁上に多数の孤立者が発生した現場想定。</p> <p>★孤立者の救助に際して、防災航空隊はじめ各機関のヘリコプターの現場到着が困難な状況として、地上部隊のロープレスキュー技術を駆使した救助活動とする。なお、陸路の進入ルートは途絶されたものとし、また、はしご車の活用についても、隊員の投入のみとする負荷要素を盛り込む。</p>									
参加部隊	隊別	島根県	高知県	その他						合計
	部隊名	隊数	隊数	隊数						隊数
	統括県大隊長	1								1
	県大隊指揮隊		1							1
	救助小隊	2	1							3
	消火小隊		3							3
	救急小隊	2	1							3
	特殊装備小隊 (はしご車)	1								1
	海上保安庁			1						1
合計	6	6	1						13	
《活動概要》										
<p>1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施</p> <p>2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施</p> <p>3 特殊装備小隊（はしご車） 救助活動場所（橋梁上）へのアプローチにおいて、性能特性を活かした活動展開実施</p> <p>4 救助小隊 他機関と連携し、活動方針の転換に際しても迅速・的確なる対応を実施</p> <p>5 消火小隊 救助小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施</p> <p>6 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施</p> <p>7 海上保安庁 海上保安庁所属の救難士による、緊急消防援助隊との連携での救助活動を実施</p>										
関係機関	第八管区海上保安本部美保航空基地									
指揮支援部隊	神戸市消防局指揮支援隊									

## 2 訓練想定・施設



### 【要救助者状況】

車両	乗員数	状況
①軽乗用車	2	地震、及び橋梁倒壊の異変に気づき急ブレーキをかけたところ、後続車両(②軽トラ)に追突され、乗車していた2名が負傷
②軽トラ	1	前方車両(①軽乗用車)の減速に伴いブレーキを掛けるも追突、傷者は車体の変形により下腿部が挟まれ状態。両サイドドアともに変形により用手での開放不可
③ワンボックス車	3	地震、及び橋梁倒壊の異変に気づき停車。乗車していた3名とも車外に出ている。
④大型バス (50人定員)	6名 (車内3名、 車外3名)	異変に気づいた運転手の急ブレーキで前輪が脱輪した状態で停車。乗員のうち、窓から自力で車外に出た者が3名いる。

### 【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化 有・無 ライミング	負傷箇所	歩行	意識(JCS)	瞳孔	呼吸数	SpO2 (%)	脈拍数	血圧	備考1
	氏名	関係	性別		START	PAT										
1	坂本リュウマ	運転手	男	軽乗用車 (運転席)	黄		無	両膝打撲	不可	0	有	18	98	90	120/80	閉じ込め無し
2	坂本リョウコ	助手席	女	軽乗用車 (助手席)	黄		無	頸椎捻挫	不可	0	有	24	98	80	140/80	閉じ込め無し
3	山内ヨウタ	運転手	男	軽トラ	赤		無	胸腹部 下腿部	不可	100	無	42	95	120	90/50	閉じ込め有(両サイド ドア用手での開放不可) ・車体の変形により下腿 部挟まれ有り
4	尼子ツネコ	運転手	女	ワンボックス車外	黄		無	胸部打撲	不可	3	有	24	97	100	120/80	
5	尼子ハルオ	助手席	男	ワンボックス車外	緑		無		可	0	有	18	98	90	110/80	無傷者
6	尼子ヨシオ	後部座席	男	ワンボックス車外	緑		無		可	0	有	18	98	80	120/80	無傷者
7	堀尾タダシ	自力脱出	男	バス車内	緑		無		可	0	有	18	98	80	130/90	無傷者
8	山中シカオ	自力脱出	男	バス車内	緑		無		可	0	有	18	98	100	110/70	無傷者
9	山中マオ	自力脱出	女	バス車内	緑		無		可	0	有	18	98	80	140/90	無傷者
10	松平イチロウ	通路で転倒	男	バス車内	黄		無	左足打撲	不可	1	有	24	97	90	150/90	
11	松平ケンジ	座席	男	バス車内	黄		無	頭部打撲	不可	0	有	24	99	100	130/80	
12	安松ケンタ	座席	男	バス車内	黄		無	両足打撲	不可	1	有	18	97	90	140/80	人工透析
13	浜口コトミ	路上で立位	女	バス車外	緑		無	右手切創	可	0	有	18	98	100	120/90	・自力で車外に出たもの
14	江角マサミ	路上で立位	女	バス車外	緑		無	頭部切創	可	0	有	24	99	90	100/60	・自力で車外に出たもの
15	牧カズオ	路上で座位	男	バス車外	緑		無		可	0	有	18	97	70	140/80	・自力で車外に出たもの

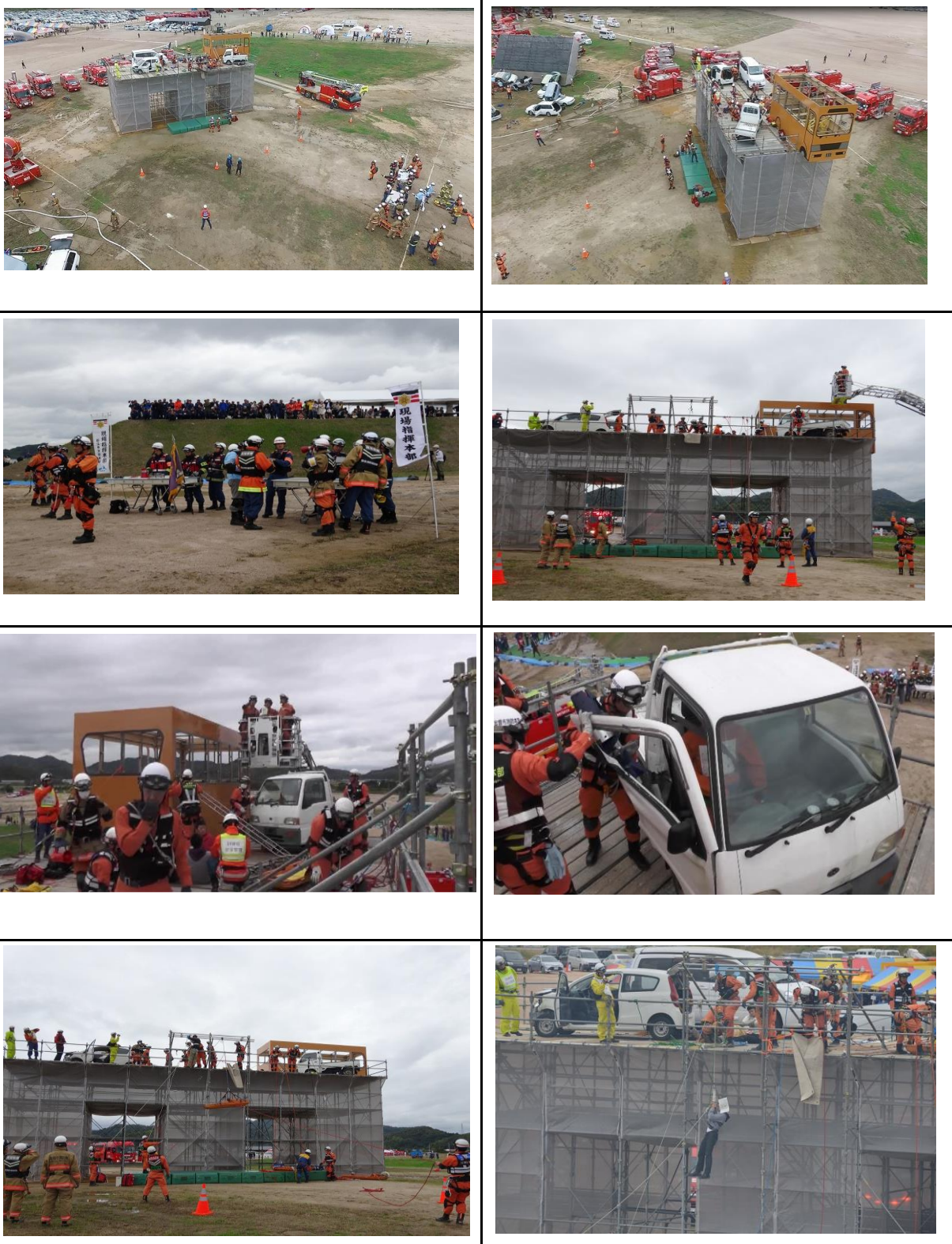


### 3 訓練評価


#### 【島根県評価員】

- (1) 関係機関との連携など情報共有や活動調整において、現場活動隊と指揮隊の情報共有が出来ていた。
- (2) ハイポイントとなる単管が設定されていたが、上下単管のスペースが狭く、要救助者の振り出し時苦慮していた。また、危険が憂慮させる場所（現場）においては、要救助者へのヘルメット装着等を考慮すること。

### 4 活動状況

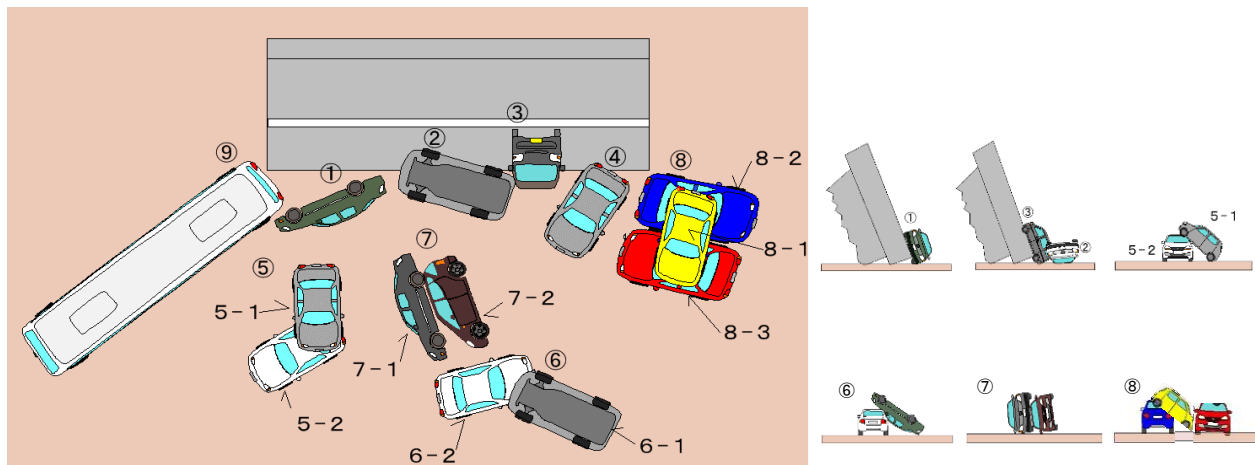
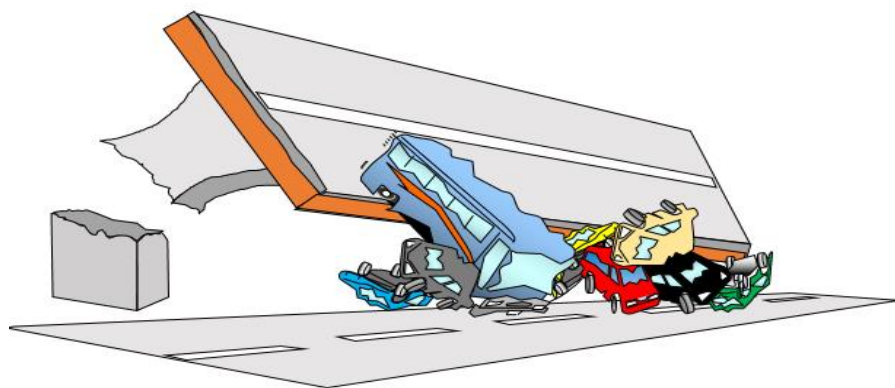


1 訓練項目別概要票

訓練名称	橋梁倒壊多重事故対応訓練				訓練番号	⑦	
訓練時間	訓練所要時間	待機完了	出 動	完了			
	120分	9時25分	9時40分	11時40分			
訓練場所	部隊運用訓練会場						
訓練想定	地震により高速道路の一部区間で橋梁が倒壊崩落し、走行中の多数の車両の墜落事故が発生した。						
	訓練趣旨						
	<p>●阪神淡路大震災を教訓に、高速道路の一部区間で橋梁が倒壊・落下し、走行中の多数の車両の墜落多重事故が発生した現場想定。</p> <p>★大破した多数の車両が上下に折り重なり、活動困難な現場状況。併せてガソリンペーパーが発生し、火災危険の排除が必要な環境条件として、多数の救助隊等の徹底した指揮統制が求められる現場における交通救助活動を実施する。</p>						
参加部隊	隊別	広島県	愛媛県				合計
	部隊名	隊数	隊数				隊数
	統括県大隊長	1					1
	県大隊指揮隊		1				1
	救助小隊	3	1				4
	消火小隊	6	2				8
	救急小隊	3	2				5
	特殊装備小隊 (大型水槽車)	1					1
	特殊装備小隊 (大型プロア-搭載車)	1					1
	その他の隊	1					1
合計	16	6				22	
《活動概要》							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 統括県大隊長 現地合同調整所を設置し、他機関との連携調整及び指揮系統を明確化した活動を実施</li> <li>2 県大隊指揮隊 統括県大隊長を補佐・連携し、救助の活動調整を実施</li> <li>3 特殊装備小隊（大型プロア車・大型水槽車） 多重事故現場の火災危険排除について、相互の性能特性を発揮した連携を実施</li> <li>4 救助小隊 現場評価等の後、優先順位の判断の基で救助活動を実施</li> <li>5 消火小隊 救助小隊等の活動支援及び救急活動支援を実施</li> <li>6 救急小隊 要救助者のトリアージ、応急手当、応急救護所及び病院への搬送を実施</li> </ol>							
関係機関							
指揮支援部隊	岡山市消防局指揮支援隊						

## 2 訓練想定・施設

- ・倒壊崩落橋梁
- ・多重事故車両



### 【要救助者状況】

車両	乗員数	状況
車両①	4	一方が壁面に接し、活動域の制限がある状態。ドアの開放はバックドアも含めて全て可能。
車両②	2	仰向けの状態、車両後方が車両③に接しているように設定。
車両③(軽)	1	傾斜面に寄り添った状態であり、不安定状態の訓練想定。
車両④	1	三方が他の車両や壁面に接した状態であり活動域に制限がある設定。
車両⑤-1	2	車両⑤-2に馬乗り状態で重なる2台の事故車両。不安定状態の訓練想定。
車両⑤-2	2	車両⑤-1に覆いかぶさられた状態。用手によるドアの開放不可。
車両⑥-1(軽)	2	仰向けの状態、で車両⑥-2に覆いかぶさった状態。不安定状態の訓練想定。
車両⑥-2	2	車両⑥-1に覆いかぶさられた状態。用手によるドアの開放可能。
車両⑦-1(軽)	1	横倒し状態。車両⑦-2に寄りかかられた状態で不安定。運転席側以外はドアの開放可能。
車両⑦-2	1	横倒し状態。車両⑦-1に寄りかかった状態で不安定。運転席側以外はドアの開放可能。
車両⑧-1	2	車両⑧-2と⑧-3の上に乗った状態。後部座席のみ用手によるドアの開放可能。
車両⑧-2	2	車両⑧-1に覆いかぶされた状態。ドアの開放は不可。
車両⑧-3	2	車両⑧-1に覆いかぶされた状態。ドアの開放は不可。
車両⑨(大型バス)	18	車体の損壊激しく車内の要救は墜落の衝撃により一箇所に要救助者が折り重なった状態。乗車口のドアは閉まったままの状態。



【傷病程度等】

No	負傷者			配置先	トリアージ		容態変化		負傷箇所	歩行	意識 (JCS)	従命	呼吸数	SPO2 (%)	脈拍数	血圧	備考
	氏名	関係	性別		START	PAT	有・無	タイミング									
1	尾方コウジ		男	車両1 運転席	赤		無		胸部打撲	不可	1	無	18	96	120	100/80	
2	尾方カナ		女	車両1 助手席	赤		無		出血性ショック (骨盤骨折)	不可	300	無	18	90	130	70/80	
3	尾方シノブ		女	車両1 後部座席(運)	赤		無		胸部打撲	不可	3	無	42	90	140	120/80	
4	尾方タカシ		男	車両1 後部座席(助)	赤		無			不可	100	無	24	97	120	130/90	
5	前田ケンジ		男	車両2 運転席	赤		無		頭部打撲	不可	300	無	18	98	50	150/100	
6	前田マサヨ		女	車両2 助手席	黒		無			不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
7	別府マナブ		男	車両3 運転席	黄		無			不可	3	有	18	98	60	100/80	
8	立川ヒロシ		男	車両4 運転席	黄		無		両下腿打撲	不可	1	有	18	98	80	120/80	
9	山本コウイチ		男	車両5-1 運転席	赤		無		胸部打撲 緊張性気胸	不可	100	無	36	88	120	80/40	
10	山本ミカ		女	車両5-1 後部座席	黄		無			不可	1	有	24	97	90	150/40	
11	浅井ジロウ		男	車両5-2 運転席	黄		無		両膝打撲	不可	1	有	24	98	100	140/90	
12	浅井マナ		女	車両5-2 助手席	赤		無		頸椎損傷 神経原性ショック	不可	100	無	10	92	40	70/80	
13	早川ケンタ		男	車両6-1 運転席	黒		無		多発外傷	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
14	早川エリカ		女	車両6-1 助手席	赤		無		骨盤骨折	不可	30	無	24	測定不能	120	60/-	
15	毛利コジロウ		男	車両6-2 運転席	黄		無		頭部外傷	不可	2	有	18	98	80	150/80	
16	毛利モトコ		女	車両6-2 助手席	黄		無		気分不良	不可	0	有	18	98	80	140/90	
17	寺岡マユ		女	車両7-1 運転席	赤		無		肋骨骨折	不可	1	有	42	93	130	140/80	
18	笹岡シヤ		男	車両7-2 運転席	赤		無		肝損傷	不可	10	無	18	90	110	80/40	
19	野村カズヤ		男	車両8-1 運転手	赤		無		頭部外傷	不可	30	無	24	98	110	100/80	
20	野村テツオ		男	車両8-1 後部座席(運)	赤	緑	有		過換気 パニック	不可 可能	1 1	有 有	42 24	100 100	120 90	140/100 140/100	生体
21	大野マコト		男	車両8-2 運転手	赤		無		頭部出血	不可	200	無	24	95	60	150/100	
22	大野ハナコ		女	車両8-2 助手席	赤		無		頸椎損傷	不可	100	無	18	90	50	70/40	
23	津川テルヒコ		男	車両8-3 運転手	黒		無		頭部圧挫	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
24	津川ミサ		女	車両8-3 助手席	黒		無		全身圧挫	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
25	徳田サブロウ		男	大型バス 運転手	赤		無			不可	0	無	42	100	110	140/90	
26	大杉ケン		男	大型バス 4列目通路最下	赤		無		圧挫症候群	不可	30	無	36	98	120	80/40	
27	相川ショウタ		男	大型バス 4列目通路中下	赤		無		腰部打撲	不可	1	有	36	96	140	70/-	
28	坂東エイスケ		男	大型バス 4列目通路中	赤		無			不可	20	無	24	98	90	120/80	
29	尾崎ショウジ		男	大型バス 4列目通路中上	赤		無		頸椎損傷	不可	100	無	10	93	50	70/40	
30	川上ケンジ		男	大型バス 4列目通路最上	赤	黄	有		脳振とう	不可 可	100 3	無 有	18 18	98 98	80 80	120/80 120/80	生体
31	馬場ショウイチ		男	大型バス 最後部座席下	黒		無		C P A	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
32	鶴田ダイスケ		男	大型バス 8列目通路下	赤		無		両大腿骨折 ショック	不可	1	有	42	80	120	90/50	
33	武藤ケイタ		男	大型バス 8列目通路中	赤		無		胸部打撲 血胸	不可	30	無	36	90	130	70/40	
34	佐々木コウヘイ		男	大型バス 8列目通路上	黒		無		C P A	不可	300	無	なし	測定不能	なし	測定不能	
35	橋本シンゴ		男	大型バス 8列目座席	黄		無		背部打撲	不可	0	有	24	98	90	130/90	
36	三沢ミツオ		男	大型バス 1列目	黄	緑	有		吐気	不可 補助可能	0 0	有 有	18 18	98 98	80 80	100/70 120/80	
37	川田トシコ		男	大型バス 1列目	黄	緑	有		気分不良	不可 補助可能	1 0	有 有	18 18	98 98	90 90	120/80 120/80	
38	小橋ケンゾウ		男	大型バス 3列目	黄		無		頭部出血	不可	0	有	18	97	100	130/90	
39	山波タツオ		男	大型バス 3列目	黄		無		左足打撲	不可	0	有	24	99	90	110/80	
40	北田アキラ		女	大型バス 5列目	黄		無		両膝打撲	不可	0	有	18	99	80	140/100	
41	磯野アサリ		女	大型バス 5列目	黄		無		頸椎捻挫	不可	0	有	18	100	100	130/80	
42	有村アケミ		女	大型バス 7列目	黄	黒	有		心室細動	不可 不可	1 300	有 無	24 なし	99 測定不能	90 なし	120/80 測定不能	

### 3 訓練評価

#### 【島根県評価員】

- (1) 多数傷病者対応にいて、救助統括と救急搬送統括の間で、傷病者数が合わなくなっていた。  
複数の部隊が連携する中で、トリアージタグの仕様が本部によって3枚複写を使用するところと、4枚複写のところがあり、搬送時に現場指揮所へ渡すもぎ取った枚数により混乱が生じた可能性がある。
- (2) 「余震」の想定付与に対し、退避について良好であったが、活動再開時に安全確認が不十分な面があった。
- (3) 可燃性ガスの排除に大型ブロー車は有効であると感じた。
- (4) 訓練中、現場指揮本部が設置したテントが風で飛んでしまい、非常に危険であった。杭等による固定が必要。
- (5) その他  
会場設定において、車両動線の数が不十分であり、進入車両を渋滞させた。

### 4 活動状況





